

関係者各位

公益財団法人 日本ライフセービング協会
ライフセービングスポーツ本部長 宮部周作
競技運営・審判委員会 委員長 中島典子

ビーチフラッグスの正しくないスタート姿勢の取扱いについて（続報）

JLA ライフセービング競技規則<2020 年版>（2020.06.01 版）の公開に伴い、ビーチフラッグス競技の規則運用について、以下の通りお知らせいたします。

● 概要

ビーチフラッグスにおいて「正しくない姿勢でスタートする行為」は、引き続き「除外」の対象とする。これは、2019 年 6 月 10 日発表文書（競審委 2019-002「ビーチフラッグスの正しくないスタート姿勢の取扱いについて」）から変更はないが、競技規則の改定に伴い根拠となる理由に変更が生じている。

● 解説

JLA 競技規則<2018 年版>及び<2019 年版>では、ビーチフラッグスにおいて「競技別規則に記述されたとおりに競技を終了できなかった場合」、状況に応じて「除外」を適用できることから、「正しくない姿勢でスタートする行為」を「除外」対象としていた。

新しい競技規則<2020 年版>（2020.06.01 版）では、スターターの号令で競技者は記述されたとおりにスタートの姿勢をとることが求められているにもかかわらず（「4.10.3. スタート」参照）、それに従えなかった場合は不正スタートに該当するとみなし（「4.10.4. 不正スタート (a)」参照）、「除外」対象とする。また、一旦、記述されたとおりにスタートの姿勢がとれても、スタートの合図までの間に、胃部が砂から離れたり顎が手から離れるなど、記述されたとおりの姿勢から逸脱すれば、スタートの動作を始めた不正スタートであるとみなし（「4.10.4. 不正スタート (b)」参照）、「除外」対象とする。

競技規則<2020 年版>（2020.06.01 版）発行以降、このような運用を基本とする。



- (参考) 関連する競技別規則 (4.10 ビーチフラッグス) の本文

4.10.3. スタート

スターターの「Competitors Ready (コンペティターズ・レディ)」の号令で、競技者は記述されたとおりにスタートの姿勢をとる。スターターの「Heads down (ヘッズ・ダウン)」の号令で、競技者は — 遅滞なく速やかに — 顎を両手の上に乗せる。

- (a) 意図的な間を置いて全ての競技者が静止した状態になったら、スターターはホイッスルを強く — 吹きしてスタートの合図をする。
- (b) スタートの合図の後、競技者は自身の足で立ち上がり、競い合ってバトンを取る。

4.10.4. 不正スタート

ビーチフラッグスの不正スタートは以下のとおり：

- (a) 合理的な時間内でスターターの号令に従えなかった場合、
- (b) 「ヘッズ・ダウン」の号令の後、且つ、スタートの合図の前に、体の一部が砂から上がる又は、スタートの動作を始めた場合。

(後略)

- (参考) 除外と失格の違いについて

「4.10.11. 除外及び失格」より抜粋

不正スタートにより除外された競技者でも、それ以前のレースで獲得した点数及び／又は順位は保持できる。ただし、失格の場合は全ての得点及び順位を失う。

以上

公益財団法人 日本ライフセービング協会
ライフセービングスポーツ本部
info@jla.or.jp



水辺の事故ゼロをめざして
日本ライフセービング協会